

平成 30 年度 未来をつくろう 市民と市長の地域懇談会 報告書



日時 平成 30 年 10 月 19 日（金） 午後 6 時 30 分～8 時 20 分

場所 栄町コミュニティーセンター

参加者数 30 人

市側出席者	市長	北	猛俊
	副市長	石井	隆
	教育長	近内	栄一
	総務部長	稲葉	武則
	市民課長	関澤	博行
	保健福祉部長	若杉	勝博
	経済部長	後藤	正紀
	建設水道部長	吉田	育夫
	教育部長	亀淵	雅彦
	ぶどう果樹研究所長	川上	勝義
	企画振興課長	西野	成紀
	財政課主幹	高田	敦子

【市長 開会のあいさつ】

今日は、栄町、若葉町、幸町のみなさんにお集まりをいただき地域懇談会を開催させていただきました。大勢のみなさんにお集まりをいただきお礼を申し上げます。十勝岳、芦別岳は山頂の方が白くなり、夜の寒さも厳しくなってきました。

市長に就任してから5カ月が過ぎましたが、この間、まちづくりについて、様々な機会を通じてご意見をいただいています。そうして、ひとつひとつのまちづくりに対する課題を解決しながら、市民にとってより良いまちづくり、安心安全なまちづくりに努めていきたいと思っています。今日の地域懇談会は、みなさんの意見をききながら、まちづくりにつなげていくことができれば幸いと思っています。

富良野市が当面解決しなければならない課題として今回はテーマを2点あげています。それぞれ、今までの経過と市の考え方を説明したうえで、みなさんからご意見をいただきたいと思います。JRの関係と庁舎の関係は、みなさんのご意見をいただきながら、より良いJRの対策、庁舎づくりにつなげていきたいと思っています。

いずれにしても、みなさんのご意見がいかされて、はじめて市民満足度の高いまちづくりになっていくと考えていますので、忌憚のないご意見をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

1. 鉄路のあり方について

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○今までは乗って守ろうという地域の努力があったが、最終的にはそれがかなわないということで、国の支援をもらうということは理解するが、国と道の支援だけを頼りにすすめていくのではなく、地元としての市民の盛り上がりが必要なのではないか。</p> <p>○市として、住民として、何をやらなければならないのか。昨年の地域懇談会で、市議会議員でさえ年間2回しか乗らないといていた。市の職員も車で出張することが多い、小さなことでも市としてやっていきたい、住民にも、こうしてほしいということききたい。</p>	<p>○市としても鉄路存続の危機感を市民のみなさんと共有するために、昨年度から地域懇談会のテーマにしてきました。JR北海道の年間の赤字額は約180億円で、北海道民540万人で割ると、1人3,300円となります。仮に北海道民が1人3,300円分のJR利用があれば180億円の穴埋めになると考え、昨年、富良野から札幌までの往復割引切符4,350円で、年に1回はJRの利用をしてくださいという呼びかけをしました。国は北海道や市町村に対して、国に依存するだけでなく、どこまで覚悟があるのかを試し、負担を求めています。今後、平成31・32年度の2年間は、JR北海道と地域が一体となって、自らの地域でどんなことができるのかという事業計画をたてるように示されました。そのなかで、利用者の増加見込みのほか、駅舎の維持管理、除雪、利用促進策などをJRと自治体がつくりまします。今後、市民のみなさんと一体となって、どうしたら盛り上がりをつくれるのかを考えていく必要があります。地域懇談会やセミナー、シンポジウムなどの機会をつくり、共有していきたいと考えています。</p>

○31年間国鉄に勤務していた。民営化になったときから北海道は赤字になるとわかっていて。当時、国が何十億も支援したが底をついている。民間企業なので、公共性があるから内部努力で改善しろといっても無理。今になって乗って守ろうといっても、結局はどうにもならない。応分の負担というのはどのくらいの金額なのか。鉄道の問題は何年もしているが先に進まない。相手は民間企業ということを考えてほしい。みんなが乗ればいいが、ほとんど乗れてないのが現状。子どもを連れて家族で札幌にJRで行けるのか。年寄りも滝川の乗り換えに間に合わない。もう少し、実のある検討の仕方をしないと先に進まない。

○昨年の地域懇談会で、1年間の経過報告ではなく、重要な沿線の会議や道の会議、市の動きを随時広報で教えてほしいとお願いしたが、それがないまま地域懇談会となった。振り返ると、今年の3月には北海道は国に対してかなり厳しい意見を言っていた。そのときは地元負担の話はでていなかった。それが、いつの時点である程度の支援ということになったのか。最近、災害の関係でJRの負担が大きくなっている。南富良野は新得と連携で鉄道の廃止は絶対ゆるさないと固い決意の集会を2回も3回もやっている。富良野と南富良野の連携はどうなっているのか。一方ではある程度の支援というが、もう一方では絶対にゆるさないとっている。一定の重要なことは広報で伝えてほしい。1年前と状況が大きく変わってきた。

○JRは金を出したくない。自治体も国の施策に頼る。先に出すか出さないか。山部商工会も行事の移動で使うバスをJRに切り替えている。鉄道の関係は、毎月広報に1ページか

○市の出張でも、行って直ぐに帰ってこなければならぬ場合を除いて、札幌と旭川へはJRを利用するようにしています。今までは公用車を利用していましたが、予算上はJRの予算をつけて、乗るような形ができています。市民のみなさんも、バスをJRに変えてくれた方もいますので、市でも市民のみなさんにJRの利用についての協力をお願いしていきたいと思います。

○鉄道の問題に関する情報提供のあり方ですが、昨年の広報8月号に20ページにわたり、鉄道の特集を掲載しました。その後、毎月1回根室本線対策協議会の会議を開催していま

ら2ページ掲載し、鉄路の問題を考える、市民としてはどうあるべきか、自治体はどうするのか。新聞では断片的には出るが、継続的に2年間で良いので、会議と内容を掲載し市民に問いかけるような情報の伝達をお願いしたい。

○市で鉄路の応分の負担というのは、どのくらいの金額か。

したので、今年の広報2月号で根室本線対策協議会の調査検討の具体的なシミュレーションの内容を4ページにわたって掲載しました。昨年の地域懇談会でだされた意見は、広報11月号と2月号に掲載しています。情報のなかには出せないものもありますが、市のホームページではこれまでの会議の概要を公開しています。今回のご意見を受けて、出せる情報は広報や市のホームページを活用し情報提供していきます。

○国から示されているのは、国が2年間で400億円台を支援するとしています。地方自治体が同水準の支援を行うとすると、何千万円の負担が求められると想定しています。

○各自治体の10路線13線区が対象になっていますが、利用する人からすると北海道の鉄路はみなつながっています。国交省から説明にきたときに、各市町村の首長が負担をする割り振りを179市町村にできないかと質問をしています。このことで負担額が下がると考えられます。なお、客車だけでなく、貨物もありますので、道や国と交渉していきます。富良野市は観光と農業が基本なので、さびれるようなことのないよう、負担をしてでも存続したいと考えています。

2. 新庁舎建設について

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
○新庁舎は約58億となっているが、何年でいくらか返すのか。	○新庁舎は想定で58億円の事業費とすると、返済対象額は利息を含めて60億円になります。このうち14億円が国から措置されますので、実際の返済額は46億円になります。これを30年間で償還し、金利1%と想定すると毎年の返済額は1億7千万円になります。

3. 災害対応について

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○胆振東部地震による市の一連の対応を教えてください。</p>	<p>○早朝3時頃、市内で震度4の地震が発生しました。午前4時過ぎに災害対策本部を立ち上げる前の各部長招集を行い、市内の建物の被害状況を確認しました。市庁舎の停電については発電機で対応し、大会議室などの一部だけに電力を供給しました。水道の断水という誤った情報が広がりましたが、打ち消すことが足りなかったと反省しています。市からの正しい情報をどのようにして市民のみなさんへ伝達できるかは、FMラジオふらの、安全安心メール、市公式フェイスブックを活用していきたいと思っています。</p> <p>○水道施設は、上水道1施設、簡易水道6施設があります。このうち上水道はすべての施設で自家発電設備がありますので停電による断水はありませんでした。5つの簡易水道施設でも発電機を備えていますので、断水はありませんでした。富丘簡易水道については、自然流化なので電気の使用に関係なく断水はしません。各家庭では、停電で地下水ポンプが止まったり、3階以上のマンションでは受水槽に送水するポンプが止まった関係で断水しましたので、一時的に臨時給水場を設けて、ポリタンクでの給水を行いました。東山地区と学田地区の簡易水道では、地震の影響で井戸の濁りが発生しましたが、回復が早かったため断水はしていません。麓郷地区の簡易水道は、簡易ろ過機が止まった影響で、安全な水が供給できなくなったことから、麓郷の旧藤林商店で臨時給水活動を2日間行いました。下水道については、山部と市内の2カ所の水処理センターがありますが、どちらも自家発電機能を備えているので問題はありませんでした。しかし、起伏がある下水道管のくみ上げに必要なポンプ場では、長時間の停電によりポンプ場があふれて排水ができなくなると予想されたため、停電の数時間後には7カ所すべての排水ポンプ施設に市の発電機を持って行き、電力を供給して排水の対応をしました。基本的には市が管理している水道は停電の対応ができていました。各家庭などで自家用水を使っている方、マンションの給水</p>

<p>○停電の問題。電気が切れるとラジオもない。ホームページもみられない。電池の用意もしていない。市民は状況がわからない。栄町では学校が休みという広報車は回ったが、そのほかの状況を伝える広報車が回ってこない。水が止まるとうわさがあつて水を貯めた。情報が全くないなかで、かなり不安な市民が多かった。よくホームページというが年寄りは見られない。3分の1は年寄りになっているので現実的ではない。</p>	<p>は今後の課題と思っています。ごく一部の専用水道の濁り発生も今後の課題として対応を強化していきたいと考えています。</p> <p>○FMラジオふらは地震直後に送信場の電源を復旧するため、非常電源を持っていき対応していました。問題は、市により状況について放送を流していましたが、流した後に止めていたので、止まっている間に音楽が流れていたという状況です。今後、割り込み放送を「何時現在の情報です」という内容を、エンドステープを使って切れ目のない放送を流して対応したいと思います。他市でも地域FMが活用されたといっていますので、もっと活用していきたいと思います。また、町内会長にお願いし連絡に町内を歩いて回っていただいた件ですが、停電でチャイムが鳴らなくて誰もでてくれない、ということもあり今後の課題と考えています。</p> <p>○断水の件は、市の水道は大丈夫だと広報しなければならぬと反省しています。</p>
--	---

4. 地域の課題について

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○連合町内会の要望で、平成25年から市道と歩道の要請をしてきた。この間、ずっと対応してくれたことで道路の穴ぼこがなくなった。</p> <p>○曙公園で大きなポプラの木、倒木の危険がある木についても、すぐに対応してくれた。その他、公園の門柱、外柵の老朽については、修繕されずに残っている。全体の年次計画のなかでお願いしたが、平成30年度以降といわれた。保育所の園児がよく使うようになっていく。危険性もあるので点検してもらいたい。</p>	<p>○曙公園の関係ですが、公園は長寿命化計画の補助事業のなかで、既存遊具の原型復旧を実施していますが、門と柵は補助対象外となっています。曙公園の状況は現地確認して承知しています。遊具はそれほど古くありませんので計画のなかで対応します。門と柵は、支柱だけを更新し、ネットは夏だけ付けて冬は周辺住民に方が雪を捨てる場所として活用するような方法も町内会と話しをしていきたいと思っています。</p>

- 民泊の関係で、栄町コミセンの前に2戸ある。建設当初から民泊ときいていたが、届出がされているのか確認したい。完成してから町内会に入ってほしいと頼んだが、土地所有者が市民ではない、居住者もいないので町内会には入らないといわれた。家主のいる民泊と家主のいない民泊によって管理も違ってくる。民泊が悪いとはいわないが、実態を知ってみたい。
- 8月16日にテレビに洪水警報がながれた。インターネットで調べたら、布部大橋付近の水位が、4段階中3段階になったことで洪水警報を発したとのこと。3段階は避難情報の段階になる。対象地域はまちなか全体だった。実際の空知川の水位は低く、報道で流れている洪水警報と実際の水位が違う。このとき、市はどのような対応をしたのか。検証してほしい。
- 10月の防災訓練は大雨を想定したものだったが、大雨により空知川の水位がここまで上昇し、洪水警報が発令されたという具体的なものが必要ではないか。
- 北海道や市町村には、停電に対する防災マニュアルがない。災害に対する対策本部は立ち上げるが、停電に対する対策本部は設置しない。停電に対する防災マニュアルを防災計画のなかで明記する必要がある。部長の権限で動いた緊急会議と市長の指示で動いた災害対策本部とでは責任の所在が違う。人命に関わる被害が生じたときに問題になる。停電になったときに、市が集めた情報を市民に流せていない。自主避難を周知する文書が町内会と民生委員に回ってきたが、そのなかに水道の情報も少し入れてもらえればよかった。
- 市内で民泊の届け出がされているのは6月15日現在4件でしたが、毎月更新される道のホームページによると、9月末時点で12件となっています。この地区の内訳は、栄町2件、幸町1件となっています。このほかに、ホテル旅館、簡易宿泊所は保健所の届け出となりますので民泊とは別の扱いになります。
- 洪水警報の関係ですが、開発で2年前に空知川の氾濫水位を下げた経過があります。本当に洪水によって避難勧告が出る場合は広報車を回しますので、それまでは危険がないと思っています。空知川の氾濫水位については改善を国の機関に求めています。
- 市の停電マニュアルは現在ありませんので、検討させていただきます。チラシの情報提供の方法は参考にさせていただきます。
- 庁舎は公共施設総合管理計画を策定したところですが、今後、業務継続計画をつくる必要がありますので、今後の災害対策などを明記していきます。また、市の防災計画にも明記して対応したいと思います。

【市長 閉会のあいさつ】

長時間にわたり、熱心にご意見をいただき、また説明も聞いていただき感謝を申し上げます。地域の課題として多くでていたのは災害対策でした。災害が起こり、それを例として勉強するということが手遅れと指摘されるかもしれませんが、ご指摘をいただいた部分は今回の経験を無駄にすることなく、市民に不安を与えない対策をとっていきたいと思います。道路の整備については良い評価をいただきました。今回の停電のときに、市内で信号が動いていたのは2基だけでした。近隣の町では、発電機の使用を誤り、死亡事故も発生していました。市内では良く事故が起きずに済んだと思っています。災害が起こったときに市民のみなさんの適切な判断と対応によるものだと思っています。ご協力をいただきましたことにお礼を申し上げます。

庁舎の関係、JRの関係でもご意見をいただきましたが、今日でみなさんからご意見をいただくのが最後ではありません。この後も市長室トークや市長出前トークもあります。いろいろな制度を用いながら、みなさんのご意見を聞く機会を設けていますので、今回言い足りなかったことがありましたら市長トークを使っていただきたいと思います。

いずれにしても、このあとのまちづくりは市民のみなさんと話し合いをしながらすすめていくことが多くあります。人口減少の問題、働き手不足の問題、様々な課題がありますが、市民のみなさんと課題を解決し、より良い豊かなまちづくりに努めていきたいと思っています。今後とも市政に対するご理解、ご支援をお願いしたいと思います。

【参加者アンケートの主なご意見】

年齢区分	性別	ご意見
50-59 歳	女性	<ul style="list-style-type: none">・ 鉄路の赤字額が大きすぎて個人のレベルを超えている。・ 庁舎の説明はわかるが急務とは理解できない。・ 庁舎は建てるのが先にあつての説明としか思えない。・ ゼネコンしか建てられないものを進めているのが富良野市民にとって良いこととは思えない。市税を使って、どれだけの市内企業に仕事があるのか。JVを組んでも少ないと考える。文化会館と一緒にものでなければならないのか。市内企業で建てられるものではダメなのか。・ 交付金をもらっても46億の市税なら、交付金をもらわないで建てられる庁舎のみではダメなのか。・ 防災も冬なら凍死につながる停電。もっと考えてほしい。
70 歳以上	男性	<ul style="list-style-type: none">・ 防災情報は、富良野周辺に起因した場合には、でき得る情報を市民や町内会に提供してほしい・ 新庁舎建設時、想定外の災害に対しブラックアウトなどに対処できる大型発電設備、ハード面とパソコンやソフト面での強化をしてほしい。